

## 生育診断を確実にを行い、適正な穂肥対応をしましょう。 根の活力を維持し、気象変動に強い稲づくりの実践を。 こまめな草刈りで斑点米カメムシ類を減らしましょう。

7月8日現在の生育診断圃の生育は、草丈は平年より長く、茎数は品種による差が大きく、葉数は平年並～やや多く、葉色は並～やや濃い状況です。

気温が高く状況が続いており、今後も気温が高く推移する予報となっていることから、出穂期は平年より早まる予想です。

「はえぬき」、「つや姫」、「雪若丸」は穂肥時期を迎えています。遅れずに生育診断を実施し、適正な量を追肥しましょう。

### 生育状況（7月8日現在、西置賜農業技術普及課生育診断圃）

#### 平坦部「はえぬき」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	68.3	119	長い
茎数(本/m <sup>2</sup> )	674	108	多い
葉数(枚)	11.1	+0.3	やや多い
葉色(SPAD)	45.8	+1.0	やや濃い

#### 「つや姫」の生育

項目	飯豊町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	65.6	116	長い
茎数(本/m <sup>2</sup> )	513	89	少ない
葉数(枚)	10.5	-0.2	やや少ない
葉色(SPAD)	40.8	-1.4	やや薄い

#### 「雪若丸」の生育

項目	飯豊町		概況 (指標値との比較)
	調査値	指標比・差	
草丈(cm)	62.7	126	長い
茎数(本/m <sup>2</sup> )	737	120	多い
葉数(枚)	11.4	+1.2	多い
葉色(SPAD)	46.4	+5.4	濃い

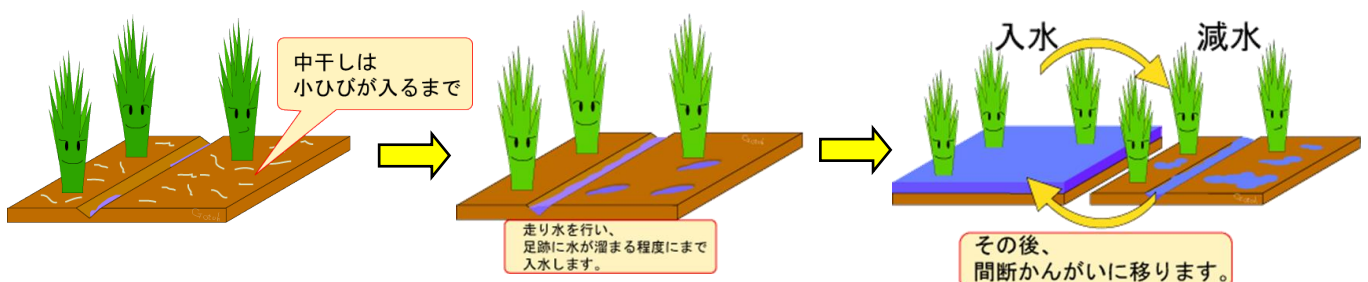
#### 1か月予報（7月7日 気象庁発表）

気温：7/9～7/15：高い見込み  
7/16～7/22：平年並みの見込み  
7/23～8/5：平年並か高い見込み  
降水量：平年並か多い見込み  
日照時間：ほぼ平年並の見込み

### 穂肥の後は根の活力維持！

○中干し終了直後は、飽水管理（土壌表面の足跡に水が残る程度）とし、徐々に間断かん水（2日湛水・2日落水）に切り替え、根の活力を維持します。

○中干しが十分に行えなかったほ場では、間断かん水の落水期間をやや長めにしましょう。



中干し後の水管理

## 生育診断を必ず行い、適正量の穂肥を！

○穂肥の施用時期は下表を目安にし、施肥量の判断は品種毎の生育診断に基づき行いましょう。

品種	出穂期 (本年予想)	出穂期 (平年)	穂肥の タイミング	穂肥時期の 目安	施肥量 (N kg/10a)
ひとめぼれ	8月2日	8月4日	出穂 20 日前	7月13日	1.5
雪若丸	8月3日	8月5日	出穂 25 日前	7月9日	1.5
はえぬき	8月4日	8月6日	出穂 25 日前	7月10日	1.5~2.0
つや姫	8月9日	8月11日	出穂 30 日前	7月10日	1.0~1.5
コシヒカリ	8月10日	8月12日	出穂 18~15 日前	7月23~26日	1.0~1.5

【幼穂長と出穂前日数】 ~幼穂の長さで出穂前日数を判断~

幼穂の長さ：出穂前日数 → 0.5~1mm：25日 1.5~2.0mm：20日 8~15mm：18日 2~5cm：15日

## 「遅れずに、生育診断に基づく適正量の穂肥を実施しましょう！」

### ✂ つや姫の穂肥診断 7月上旬（10葉期）

- 茎数 600 本/m<sup>2</sup>以下かつ葉色（SPAD）39 以下の場合→出穂 30 日前：N成分 1.5 kg/10 a
- 茎数 600~650 本/m<sup>2</sup>、または葉色（SPAD）39~41 の場合→出穂 30 日前：N成分 1.0 kg/10 a 以下
- 茎数 650 本/m<sup>2</sup>以上、または葉色（SPAD）41 以上  
→出穂 25 日まで葉色が低下したら、N成分 1.0 kg/10 a。葉色が低下しない場合は追肥を行わない。

### 🍷 雪若丸の穂肥診断 6月30日頃（9.5葉期）

- 茎数 560~750 本/m<sup>2</sup>以下、葉色（SPAD）40~44 の場合→出穂 25 日前：N成分 1.5 kg/10 a
- 茎数 560 本/m<sup>2</sup>未満、葉色（SPAD）40 未満の場合→早めの穂肥、出穂 30~26 日前：N成分 1.5 kg/10 a
- 茎数 750 本以上、葉色（SPAD）44 以上の場合→出穂 25 日前、葉色の低下を確認し N成分 1.0~1.2 kg/10 a

### はえぬきの穂肥診断 7月上旬（10葉期）

- 茎数 700 本/m<sup>2</sup>以下、葉色（SPAD）40 以下であれば、追肥は出穂 25 日前、窒素成分で 1.5~2.0 kg/10a を施用します。

## いもち病に注意！

- 「葉いもち」の発生に要注意！感染好適日が発生しています。  
早期発見・早期防除を徹底しましょう。
- 「穂いもち」対策の粒剤は出穂 20~10 日前に施用しましょう。

## 「斑点米カメムシ類の発生」やや多い！

- 地域全体で斑点米カメムシ類の密度を減らすことが重要です。
- 7月20日頃まで畦畔・農道、雑草地の除草（草刈）を地域ぐるみでしっかり行いましょう。
- 水田内のイヌホタルイやノビエは、アカスジカスミカメの発生源になります。残草対策を徹底しましょう。  
※除草剤の使用基準を確認し、使用しましょう。



葉いもちの病斑



アカヒゲホソドリカスミカメ



アカスジカスミカメ

## 農作業事故・熱中症に注意！

山形県農薬危害防止運動実施中！～農薬を使用する際は使用基準を再確認！その都度記帳！～